

読書に親しむ習慣の確立とTTを活用した 授業による基礎学力の定着を目指した取組

札幌市立米里中学校

I 取組の重点

1 テーマ…読書に親しむ習慣の確立とTTを活用した授業による基礎学力の定着を目指して

2 テーマの意図

生徒、教師がともに本と向き合う「朝の読書」を全校体制で実践することにより、静寂の中で1日のスタートを切り、落ち着いた雰囲気の中で授業に臨む姿勢をつくる。

また、学力の向上のため、TTを活用したきめ細かな指導を行い、習熟の程度が十分でない生徒に対する指導の充実を図るとともに、放課後における補充的な学習により、基礎学力の一層の定着を図る。

朝の読書
TTの活用
補充的学習

3 本校における全国学力・学習状況調査等の活用の進め方

本校では以下の手順で活用を進めた。

① 調査結果の分析を通して、教科（国語・数学）における領域ごとに、成果と課題を明らかにし、課題となっている学習内容について考察を行う。

② 学習状況調査の分析により、本校生徒の考え方、学習習慣、生活習慣等の傾向を把握する。

③ ①②の結果を踏まえて学校での取組を検討し、それを生かした指導方法の工夫改善を行うとともに、保護者へも学力と学習の状況と取組を伝え、協力を依頼する。

調査結果の分析

取組の検討と
保護者への協
力依頼

II 取組の具体化

1 本校における学力・学習状況に関する課題～全国学力・学習状況調査等から

全国学力・学習状況調査の結果から、本校における学力・学習状況に関する課題が以下の点にあることが分かった。

○国語Aに関して

- ・事象について書かれた一文を本文中から探して書くこと
- ・記述の一部を、文章中の他の言葉を使って書き換えること
- ・国語辞典で調べたことをもとに、慣用句の意味を書くこと

○国語Bに関して

・資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書くこと

・文章を読み、読み取った内容を条件に合った表現に直して書くこと

・ものの見方や考え方について、四字熟語を手がかりにして説明すること

・読み取った情報を根拠として自分の立場を明確にして意見を書くこと

○数学Aに関して

・文字式に数を代入して式の値を求めること

・文字式の意味を具体的な事象と関連付けて読み取ること

・点対称な図形を完成すること

・垂線の作図で利用されている図形の性質を選ぶこと

・与えられた三角形と合同な三角形を選ぶこと

・文で示された図形の性質や条件を、記号を用いて表すこと

・反比例のグラフから式を求めること

・一次関数の式からグラフの傾きを求めること

国語科の課題

数学科の課題

○数学Bに関して

- ・事象を式の意味に即して解釈し、その結果を数学的な表現を用いて説明すること
- ・2桁の自然数と、その数の十の位の数と一の位の数を入れ替えた数との差について予想した事柄を表現すること
- ・釘の全体の重さから、釘の本数を求める方法を説明すること
- ・2つの線分の長さが等しいことを、三角形の合同を利用して証明すること
- ・三角形の合同を根拠として、証明したこと以外に新しく分かることを選ぶこと
- ・5つの湖から2つの湖を選ぶ組合せの総数を求めること

学習に対する関心・意欲・態度の課題

学習状況調査の質問紙からは、次の点に課題があることが分かった。

○学習に対する関心・意欲・態度

- ・国語に関しては自分の考えを話したり書いたりすることや、発表の仕方を工夫する面に苦手意識が多い
- ・数学に関しては授業がわからないという回答が多い。

○学習の基礎となる体験・習慣

- ・テレビの視聴時間やゲームに費やす時間が全国平均より多く、その分、家庭での授業の予習や復習の時間が少ない。



2 改善策の具体化

学力・学習状況調査の結果を基に、各教科に関しては以下の項目を重点に指導することとした。

○国語に関して

- ・「書くこと」の基本事項の指導の徹底および説明文や要約文・レポートなど、様々な形態の文章の書き方を理解して書く指導の充実を図る。
- ・他との比較を通して、共通点や相違点を整理したり、情報収集やTPOを意識して的確に書く指導の充実を図る。
- ・熟語について文脈の中で意味を理解する指導、基本事項の徹底と語彙を増やすための反復練習の充実を図る。
- ・文章の内容や構成、表現上の特色を読み取り、情景描写の効果を心情理解に用いられるような指導の充実を図る。

○数学に関して

- ・計算のルールの再確認や基本的な問題の反復練習により、学習内容の定着を図る。
- ・文字式の意味を読み取る指導の充実を図る。
- ・いろいろな図形の特徴やそれらの性質の基本事項の指導の充実を図る。
- ・反比例や一次関数のグラフの特徴について理解させる指導の充実を図る。
- ・情報の整理仕方や、複数の情報から必要な情報を分類する活動の充実を図る。
- ・文字式を用いて事ごらを表現する活動の充実を図る。

書く場面をできる限り多く設け指導の充実を図る

基本的な問題の反復練習により学習内容の定着を図る。

学習状況調査の結果から、落ち着いた学習環境を作ることと、教科において、基礎・基本を一層定着させるために補充的な学習が必要と考えた。

そこで、各教科での基礎・基本の定着を図る取組の他に

- ・朝自習で基本事項の定着を図る。
- ・「朝の読書」により、落ち着いた雰囲気の中で1日のスタートを切る。
- ・TTによる、授業での個別対応をすることで、学習内容の定着を図る。
- ・放課後の補充的な学習の時間を保証する。

などの取組を行うこととした。

4つの取組



Ⅲ 取組例の実際

1 朝の読書の取組

朝自習+朝読書

職員の朝の打ち合わせを5分早め、1時限の開始を5分遅らせ、これまで行っていた朝自習の時間の後に10分間の読書の時間を設定した。この時間は、担任は教室で、副担任下等で全員が読書をするものとした。読む本については漫画、雑誌以ては自由とし、1冊読む毎に読み始めと読み終わりの日付をシートに記入させた。

また、読書後に定期的に読んだ本の紹介文を作成させ、学年掲示板や図書館などに掲示するようにした。



2 TTの活用

可能な限りTTを実施

本実践研究にかかわり、数学科に対して非常勤講師の配置、いわゆるTT加配を受けた。加配された退職教員については、第3学年すべての授業にTTとして配置したほか、第2学年でも各クラス週1回ずつ配置し、第1学年については加配以外の数学教師で各クラス週1回ずつTTの時間を設定して取り組んだ。

また、数学科以外にも、時間割の工夫により1・2年の国語科で週1回、全学年の音楽科、英語科でも週1回のTTを実施した。

3 スタータイム（放課後の補充的な学習）の実施

放課後の補充的な学習

月曜の放課後に「スタータイム」という補充的な学習の時間を1時間設定した。この時間に生徒が集中して取り組むことができるよう、部活動や委員会活動などの一切の活動を中止して、全校一斉に取り組んだ。

原則は希望制として実施したが、各教科で授業時間内に終了できなかったプリントなどにも活用できるように設定した。

○1学年の取組

事前に実施する教科（1教科）を連絡し、生徒を1教室に集め、教科担任が中心に指導する。人数が多い場合は2～3クラスに分散し、学年教師が指導。

○2学年の取組

事前に実施する教科（1教科）を連絡し、それぞれのクラスで学級担任が中心に指導する。

○3学年の取組

事前に実施する教科（英語と数学を中心に）を連絡し、それぞれのクラスで学級担任と副担任で指導する。



Ⅳ 研究の成果と課題

1 本校の取組における成果

読書量の増加

○朝の読書の取組

(1) 読書量が大幅に増加した。

昨年度、ほとんど本を読んでいない生徒が2割近くいたが、その生徒たちも朝の読書では5冊以上の本を読んでおり、全体でも平均10冊を超えている。また、休み時間に読書する姿は、以前はほとんど見られなかったが、今年によく目にするようになっている。

生徒の感想（複数回答）でも、「読書の習慣が付いた。」（56%）、「クラ

スが落ち着く。」(41%)、「勉強に集中できる。」(13%)というように、肯定的な意見が多くみられた。また、「読書のスピードが上がった。」「読書が好きになった。」「漢字が読めるようになった。」などの感想があがっている。さらに、半数以上の生徒が、読書の前に朝自習に取り組むことができるようになり、朝自習の問題を解いた後に静かに読書が始まるという流れが定着し、落ち着いた雰囲気の中で1日が始まるようになったと回答している。

作文力にも好影響

(2) 読書することにより、語彙が増え、作文の質も向上した。

以前は行事ごとの作文などで、原稿用紙の半分を埋めるのにも苦勞する生徒が多かったが、今年度はほとんどの生徒が時間内に1枚以上書くことができるようになってきている。

また、以前はひらがな中心だったものが、漢字を適切に使用して作文などを書くことも目立つようになり、文章の表現方法も豊かになって、書く能力も向上している。

○T Tの活用

問題演習の際に自力で解決に至らない生徒に対し、個別に対応することができた。3年生においては習熟の程度に差が見受けられていたことからT Tを活用したが、生徒にとっては、複数の教師がいることで、授業の流れを損なうことなく教師に質問できる面があることから、個別の指導には大変有効であった。

1年においては、方程式の授業でT Tを活用し、全員に対してマンツーマンで解法の説明をすることで、その理解度を高めることができた。

T Tで指導した複数の教師間で「今日の生徒の様子」をふり返ることによって、次の授業のポイント作りにつなげることができた。また、「生徒一人一人についてより細かい分析や配慮をすることができた」「学習に落ち着いて取り組めない生徒がいた場合の対応もスムーズに取ることができた」などといった声も多数あった。

○スタータイム

「力を付けたい」と強い意志をもって参加し、どの学年も集中して取り組んでいた。

理解することで、次の目標ができ、基本問題が終わると自分で新しい課題に向かう姿勢も見られた。参加した生徒の感想としては、70%以上が、「楽しく勉強できた」「分かるようになった」と感じ、これからも参加したいと答えている。

なお、第1学年で参加しなかった生徒は9%で、半数以上が「習い事などがあるため参加できなかった」と答えており、「勉強したくない」などの否定的な意見は4%ほどである。



質問しやすい環境ができた

参加者の大半が満足感

2 本校の取組における今後の課題

○朝の読書の取組

朝の読書は落ち着いた学習環境を作るのに大変重要な役割を果たしている。これからも、継続して行っていきたい。

○T Tの活用

校内の様々な事情から授業での事前の打合せや反省の時間を確保することが大変難しかった。今後は、情報交換を密にとるよう心がけなくてはならない。

○スタータイム

少人数での学習に対して消極的な生徒には、自主的な参加をさせることは難しいが、テストの結果などから、教師がスタータイムへの参加を促し、その結果、スタータイムに参加して「できた」という成功体験を味わわせることで、一層学習への意欲を喚起するように働きかけたい。また、課題の提示の仕方や教師のかわり方についてさらに工夫する必要がある。

○保護者との連携

今年度の様々な取組については学校便り等で報告し、保護者による学校評価でも肯定的な評価を受けている。今後は、家庭学習をしっかりと定着させるために、家庭との連携の図り方について検討する必要がある。

打合せの時間確保が課題

参加率を高めるのが課題